

外為マンスリービューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2012/05/01

欧州リスク回避と米追加金融緩和の綱引き

通貨ペア	基調		ページ数
<u>豪ドル/円</u>	↓	RBAの金融政策を見極めながら 予想レンジ: 80.30 ~ 84.80 円	2-3
<u>NZドル/円</u>	↓	NZ経済の回復動向を見つめる 予想レンジ: 63.20 ~ 66.80 円	4-5
<u>ランド/円</u>	↓	株価にらみの不安定な展開か 予想レンジ: 9.70 ~ 10.70 円	6-7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



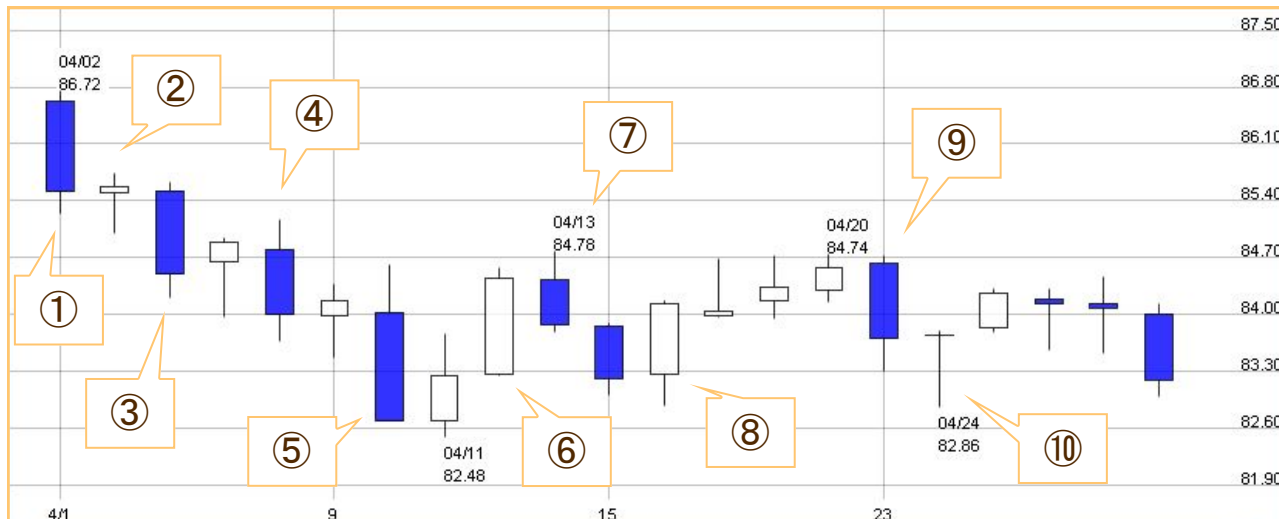
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

AUD / JPY

豪ドル/円 4月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	86.62円	86.72円	82.48円	83.19円



①	2日、週末1日発表の中国3月製造業PMIが53.1と予想を上回り、中国を最大貿易相手国とする豪州の通貨・豪ドル/円は上昇。更に日銀短観の大企業製造業の業況判断が-4と予想より弱かった事を受けて円売りが強まると、86.72円の高値を付けた。ただその後、欧州株の下落を背景にリスク回避の動きが強まり、豪ドル/円は値を下げた。
②	3日、一部で利下げ観測が浮上する中、豪準備銀行(RBA)は金利据え置きを発表。しかし「緩和を検討する前に、インフレ指標を待つのが賢明」など、利下げを意識した声明文を嫌気して急落した。
③	4日、日経平均株価が1万円の大台を割り込んで下げ足を速める中、豪2月貿易収支が4.80 億豪ドルの赤字(予想11.00 億豪ドルの黒字)と、2カ月連続で赤字となった事が嫌気されて豪ドル/円は下落。
④	6日、米3月非農業部門雇用者数が12.0万人増と予想(20.5万人増)を大きく下回った事を受け、ドル/円の急落に連れて豪ドル/円は発表前につけた高値から約1.5円急落した。
⑤	10日、一部で追加金融緩和が期待される中、日銀は金融政策の現状維持を決定。これに失望して円が買い戻された。更にNYダウ平均の下げなども重なり、豪ドル/円は大きく下げた。
⑥	12日、豪3月失業率は5.2%、新規雇用者は4.40万人増と予想(5.3%、0.65万人増)より強い結果となった。これを好感して豪ドルが買われた。NY市場にて「翌日の中国第1四半期国内総生産(GDP)の伸び率が前年比+9%に達する」との噂を背景に、豪ドル/円は84.58円まで一段高となった。
⑦	13日、中国第1四半期GDPが前年比+8.1%(予想+8.4%、前回+8.9%)に留まり、豪ドル/円は急落。
⑧	17日、スペイン短期債入札が無難に消化され、同国債利回りの低下を背景に欧米株が上昇し、リスクを積極的に取る動きが強まると、豪ドル/円は大きく反発した。
⑨	23日、アジア株が軟調にスタートした上、豪第1四半期生産者物価指数が前年比+1.4%と市場予想(+2.2%)を下回ると、豪ドル/円は下落。更に欧州株の下落を手掛かりに一段安となった。
⑩	24日、豪第1四半期生産者物価指数が前年比+1.6%、基調インフレ率は+2.15%と予想(+2.2%、+2.35%)を下回ると、市場では次回RBA理事会での利下げが織り込まれ、豪ドル/円は急落した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

AUD / JPY

今月のポイント

4月の豪ドル/円相場は82.48円～86.72円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約3.0%の下落(豪ドル安・円高)となった。スペインの財政懸念や米雇用の伸びの鈍化、中国経済の減速懸念に加え、豪準備銀行(RBA)の利下げ観測も重なり、豪ドル/円は82.48円まで下落。ただその後は本邦の追加金融緩和期待に下支えされ、82円台後半から84円台後半でのレンジ相場が続いた。

豪国外では、主要国の株価動向がポイントとなろう。欧州ではスペインの財政赤字が拡大するなど財政不安がくすぶる中、ギリシャの総選挙やフランスの大統領選挙など、相場に与える影響が不透明なイベントが複数予定されている。これらを不安視して相場に手控えムードが広がるようだと、リスク回避の動きから豪ドル/円は売り優勢となる可能性がある。

一方、米国では4月末に発表された第1四半期国内総生産(GDP)や4月シカゴ購買部協会景気指数が予想を下回った事を受け、追加金融緩和観測が浮上している。市場のムードが追加金融緩和に傾く中、4日の米4月雇用統計が予想を下回るようだと、直後はドル/円の下げに連れて豪ドル/円も下げると見られるが、その後緩和期待が一段と高まって株高に転じれば、豪ドル/円相場の下値を支えることも考えられる。

1日のRBA理事会では市場予想を上回る0.50%の利下げを実施したが、声明文を見ると「今後1-2年でインフレ率は以前の予想より低下するが、2-3%の(RBAのインフレ目標)レンジにとどまる見通し」など、追加利下げを示唆する「ハト派」的内容とはなっていない。RBAの今後の金利動向を読み解く上で、4日のRBA四半期金融政策報告や15日のRBA議事録に注目したい。(川畑)

(予想レンジ: 80.30～84.80円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

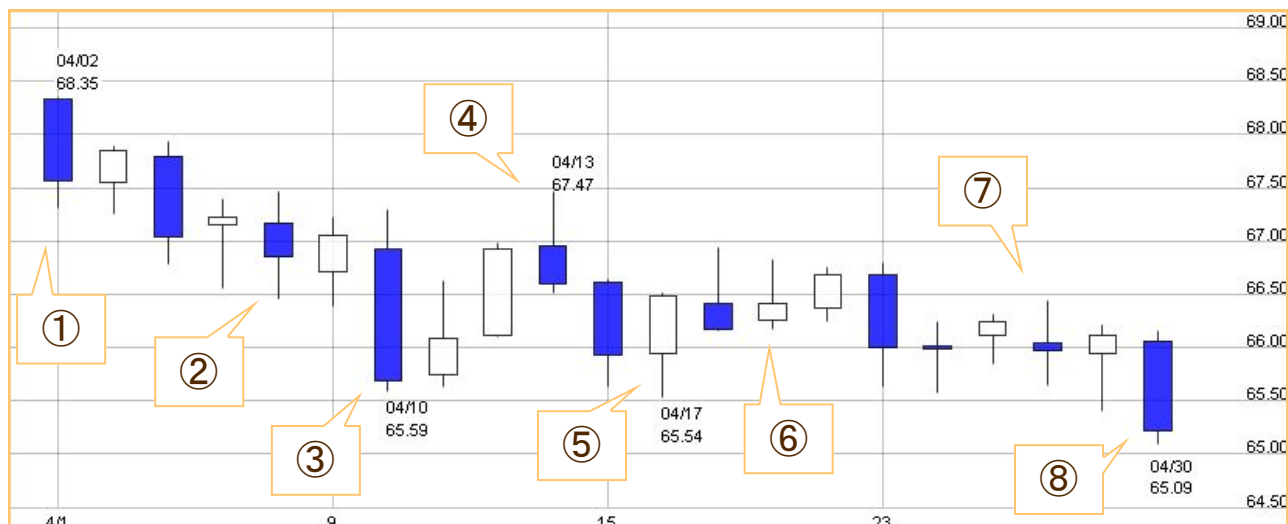
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
5/1(火)	第1四半期豪住宅価格指数	5/10(木)	3月日経常収支
	RBAキャッシュターゲット		4月豪雇用統計
	4月米ISM製造業景況指数	5/11(金)	4月中国消費者物価指数
5/2(水)	4月米ADP全国雇用者数		5月米シガン大消費者信頼感指数・速報値
5/3(木)	欧州中銀金融政策発表	5/14(月)	ユーロ圏財務相会合
	4月米ISM非製造業景況指数	5/15(火)	RBA議事録
5/4(金)	RBA四半期金融政策報告		4月米小売売上高
	4月米雇用統計	5/16(水)	FOMC議事録(4月24・25日分)
5/6(日)	仏大統領選挙	5/17(木)	第1四半期日GDP・一次速報
	ギリシャ議会総選挙	5/23(水)	日銀金融政策決定会合(22日～発表)
5/7(月)	3月豪住宅建設許可件数	5/30(水)	4月豪小売売上高
	3月豪小売売上高	5/31(木)	第1四半期豪民間設備投資
5/8(火)	3月豪貿易収支		5月米ADP全国雇用者数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

NZD/JPY

NZドル/円 4月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	68.33円	68.35円	65.09円	65.22円



- ① 2日、週末1日発表の中国3月製造業PMIが53.1と予想を上回ったことを受け、豪ドル/円の上昇に連れてNZドル/円は68.35円の高値を付けた。ただその後、欧州株の下落を背景にリスク回避の動きが強まり、NZドル/円は値を下げた。
- ② 6日、米3月非農業部門雇用者数が12.0万人増と予想(20.5万人増)を大きく下回った事を受け、ドル/円の急落に連れてNZドル/円は発表前につけた高値から約1円急落した。
- ③ 10日、一部では追加金融緩和への期待が高まる中、日銀は金融政策の現状維持を決定。これに失望して円が買い戻されると、NZドル/円は下落。NY市場でもこの事が蒸し返された他、NYダウ平均が大きく下落してリスク回避の動きが強まった事も重なると、65.59円まで一段と値を下げた。
- ④ 13日、前日のNY市場で「翌日の中国第1四半期国内総生産(GDP)の伸び率が前年比+9%に達する」との噂を背景に、豪ドル/円に連れ高となった流れを引き継ぎ、NZドル/円は67.47円まで上昇した。しかし、GDPが前年比+8.1%(予想+8.4%、前回+8.9%)に留まると、それまでの期待が失望に変わり、NZドル/円反落した。
- ⑤ 17日、この日行われるスペイン短期債入札に対する警戒感からリスク回避の動きが強まり、NZドル/円は65.54円まで弱含んだ。しかし、入札が無難に消化された事を背景に欧米株が上昇すると、NZドル/円は反発した。
- ⑥ 19日、NZ第1四半期消費者物価指数は前期比+0.5%、前年比+1.6%となった。いずれも市場予想通りの結果につき、市場の反応は限られた。
- ⑦ 26日、NZ準備銀行(RBNZ)は政策金利の2.50%据え置きを決定。その際の声明では「最近の商品価格の下落にも関わらず、NZドルは高い」「通貨高が政策の再検討を促す可能性」など、NZドル高に懸念を示す一方、「インフレはRBNZの目標レンジ(年1~3%)の中央になる見通し」「住宅市場は回復が続いている」などとした。発表直後にNZドル/円は66.44円まで値を伸ばすも、反応は持続しなかった。
- ⑧ 30日、NZ3月住宅建設許可が前月比+19.8%と大幅な伸びを示す一方、NZ3月貿易収支は1.34億NZドルの黒字と予想(4.17億NZドルの黒字)よりも黒字幅が減少した。強弱まちまちの結果を受け、市場の反応は薄かった。しかし、米4月シカゴ購買部協会景気指数が56.2と予想を大きく下回った事を受け、ドル/円が下落してNYダウ平均が軟調に推移すると、NZドル/円は65.09円の安値を記録した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

NZD / JPY

今月のポイント

4月のNZドル/円相場は65.09円～68.35円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約3.8%の下落(NZドル安・円高)となった。スペインの財政懸念の他、米国や中国経済の減速懸念を背景に、リスク回避の動きからNZドル/円はじり安基調が続いた。

5月のNZドル/円相場は、主要国の株価動向とNZ国内の景況感がポイントとなりそうだ。欧州ではスペインの財政赤字拡大により財政不安が再び拡大する恐れのある中、フランス大統領選では政権交代の可能性が、ギリシャ議会選では与党敗北の可能性が、それぞれ取りざたされている。これらは主要国の株価にとって波乱要因であり、先行き不透明感からリスク回避の動きが強まるようならば、NZドル/円の下押し要因となりそうだ。

一方、4月末に発表された米第1四半期国内総生産(GDP)や4月シカゴ購買部協会景気指数が予想を下回った事を受け、市場では追加金融緩和観測が浮上。4日の米4月雇用統計が予想を下回るようだと、直後はドル/円の下げに連れてNZドル/円も下げると見られるが、その後緩和期待が一段と高まって株高に転じれば、NZドル/円相場を下支える可能性がある。

先月のRBNZ理事会の声明文を見ると、住宅需要の持ち直しや震災復興が予定通り進んでいる事に言及している。NZドル高に懸念を示した事で一部ではRBNZの次の一手は利下げとの見方が浮上しているが、声明では前回ほど強くはけん制していない事を考えると、NZ経済の回復が進んでいる事が示されれば、次の一手は利上げとの見方が再び強まりそうだ。3日に発表される第1四半期失業率や、14日の第1四半期小売売上高などが、NZ経済の回復具合を確認する上で注目されよう。(川畑)

(予想レンジ: 63.20～66.80円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

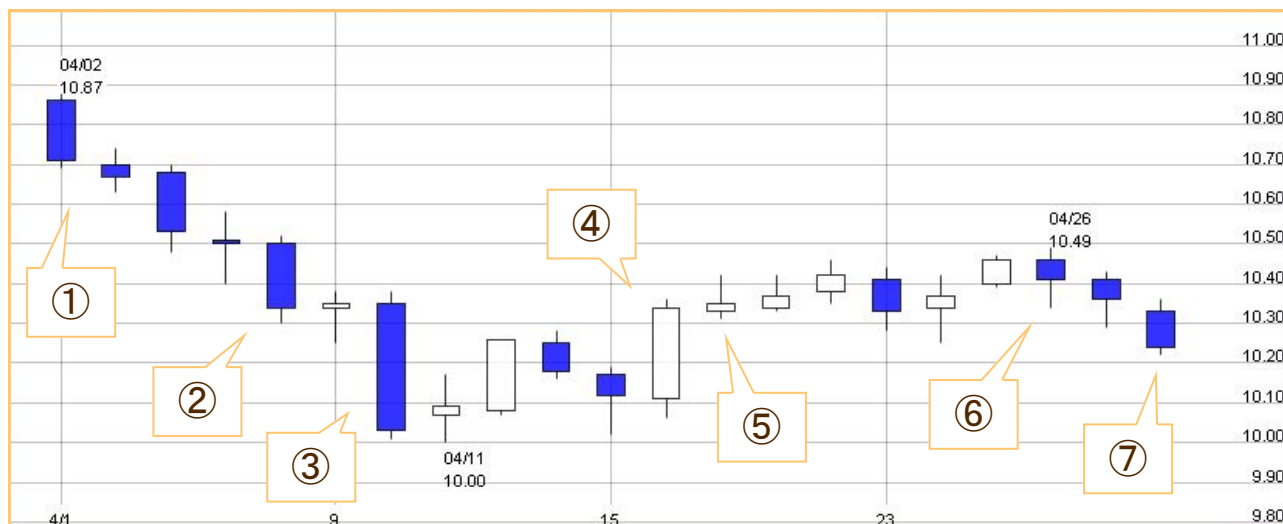
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
5/1(火)	4月米ISM製造業景況指数	5/14(月)	第1四半期NZ小売売上高指数
5/2(水)	4月米ADP全国雇用者数		ユーロ圏財務相会合
5/3(木)	第1四半期NZ失業率	5/15(火)	4月米消費者物価指数
	欧州中銀金融政策発表		4月米小売売上高
	4月米ISM非製造業景況指数	5/16(水)	FOMC議事録(4月24・25日分)
5/4(金)	4月米雇用統計	5/17(木)	第1四半期NZ生産者物価
5/6(日)	仏大統領選挙		第1四半期日GDP・一次速報
	ギリシャ議会総選挙	5/22(火)	RBNZインフレ期待(2年間)
5/9(水)	RBNZ金融安定レポート	5/23(水)	日銀金融政策決定会合(22日～発表)
5/10(木)	3月日経常収支	5/24(木)	4月NZ貿易収支
	3月米貿易収支	5/30(水)	4月NZ住宅建設許可
5/11(金)	4月中国消費者物価指数	5/31(木)	5月米ADP全国雇用者数
	5月米ミシガン大消費者信頼感指数・速報		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

ランド/円 4月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	10.86円	10.87円	10.00円	10.24円



①

2日、週末1日発表の中国3月製造業PMIが53.1と予想を上回ったことを受け、豪ドル/円の上昇に連れてランド/円は上昇。さらに、その後に発表された日銀短観の大企業製造業の業況判断が-4と予想より弱かったことを受けて円売りが強まると、ランド/円は10.87円までの高値を付けた。ただその後は、欧州株の下落を背景に値を下げた。

②

6日、米3月非農業部門雇用者数が12.0万人増と予想(20.5万人増)を大きく下回った事を受け、ドル/円の急落に連れてランド/円は発表前につけた高値から約30銭下落した。

③

10日、一部では追加金融緩和への期待が高まる中、日銀は金融政策の現状維持を決定。これに失望して円が買い戻されると、ランド/円は下落。NY市場でもこの事が蒸し返された他、NYダウ平均が大きく下落してリスク回避の動きが強まった事も重なると、ランド/円は10.01円まで下げた。

④

17日、この日行われるスペイン短期債入札に対する警戒感からリスク回避の動きが強まり、ランド/円は10.06円の安値をつけた。しかし、入札が無難に消化され、同国債利回りの低下を背景に欧米株が上昇し、リスクを積極的に取る動きが強まった。加えて、シティグループが、同社で算出している世界国債インデックス指数に南ア国債を組み入れる可能性があると発表した事や、国際通貨基金(IMF)が2012の南ア成長率見通しを今年1月の時点から0.1%引き上げ、年2.7%と発表した事も重なり、ランド買いが優勢となると、ランド/円は大きく値を伸ばした。

⑤

18日、東京市場で西村日銀副総裁が追加金融緩和を示唆した事を受けて円売りが強まると、ランド/円は値を上げた。その後17時に発表された南ア3月消費者物価指数は前年比+6.0%と市場予想(+6.1%)を下回り、5カ月ぶりに南ア準備銀行(SARB)のインフレ目標(年3~6%)の中に収まった。また、20時に発表された南ア2月実質小売売上高は前年比+7.2%と予想(+4.7%)を大きく上回った。ただ、いずれも市場の反応は薄かった。

⑥

26日、南ア3月生産者物価指数は前年比+7.2%と予想(+8.0%)を下回ったが、市場の反応はほとんど見られなかった。ただその後、ドル/円の軟調推移を背景にランド/円は弱含んだ。

⑦

30日、米4月シカゴ購買部協会景気指数が56.2と予想を大きく下回った事を受けてドル/円が下落し、NYダウ平均が軟調に推移すると、ランド/円は10.22円まで弱含んだ。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

ZAR/JPY

今月のポイント

4月のランド/円相場は10.00円～10.87円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約5.1%の下落(ランド安・円高)となった。スペインの財政懸念や米雇用の伸びの鈍化、中国経済の減速懸念を背景に10.00円まで下落するも、米シティグループが南アフリカ国債を世界国債指数に組み入れる可能性について言及した事や、本邦の追加金融緩和期待からくる円売りを背景に反発した。

5月のランド/円相場は、主要国の株価動向をにらみながらの不安定な相場展開が予想される。欧州ではスペインの財政赤字が拡大するなど財政不安がくすぶる中、ギリシャの総選挙やフランスの大統領選挙など、相場に与える影響が不透明なイベントが複数予定されている。これらを不安視して相場に手控えムードが広がるようだと、リスク回避の動きからランド/円は弱含む可能性がある。

一方、4月末に発表された米第1四半期国内総生産(GDP)や4月シカゴ購買部協会景気指数が予想を下回った事を受け、市場では追加金融緩和観測が浮上。市場のムードが追加金融緩和に傾く中、4日の米4月雇用統計が予想を下回るようだと、直後はドル/円の下げに連れてランド/円も下げると見られるが、その後緩和期待が一段と高まって株高に転じれば、ランド/円相場の上昇要因となることも考えられる。

(川畑)

(予想レンジ:9.70～10.70円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
5/1(火)	4月米ISM製造業景況指数	5/15(火)	4月米消費者物価指数
5/2(水)	4月米ADP全国雇用者数		4月米小売売上高
5/3(木)	欧州中銀金融政策発表	5/16(水)	3月南ア実質小売売上高
	4月米ISM非製造業景況指数		FOMC議事録(4月24・25日分)
5/4(金)	4月米雇用統計	5/17(木)	第1四半期日GDP・一次速報
5/6(日)	仏大統領選挙	5/23(水)	日銀金融政策決定会合(22日～発表)
	ギリシャ議会総選挙		4月南ア消費者物価指数
3-6	第1四半期南ア失業率	5/24(木)	SARB政策金利発表
5/10(木)	3月日経常収支	5/31(木)	第1四半期南アGDP
5/11(金)	4月中国消費者物価指数		4月南ア貿易収支
	5月米ミシガン大消費者信頼感指数・速報値		5月米ADP全国雇用者数
5/14(月)	ユーロ圏財務相会合	22-31	4月南ア生産者物価指数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。